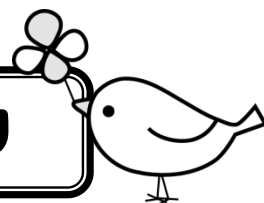


おおたま学園コミュニティ・スクール便り



「大玉村教育フォーラム2011」が11月13日（日）大玉村農村環境改善センターにおいて開催されましたのでご報告します。1時間ほどの基調講演のあと、4つの分科会に分かれて様々な意見を出し合いました。最後に助言とまとめを福島大学行政政策学類特任教授 境野健児先生からいただきました。テーマは次のとおりです。

基調講演	「学校・地域が生き生きするコミュニティ・スクール ～全国の特徴ある取り組みに学ぶ～」		
	講師	日本大学文理学部教育学科教授	佐藤 晴雄 様
分 科 会	第1分科会	「コミュニティ・スクールの理解と定着」	
	第2分科会	「豊かな学びをつくる学校支援」	
	第3分科会	「一人一人を大切に作る特別支援教育」	
	第4分科会	「学校と家庭・地域をつなぐ学校評価」	

会場いっぱい集まった参加者。来賓の方も大勢お集まりいただきました。皆様お忙しい中、ありがとうございました。

佐藤晴雄先生の基調講演

地域住民が学校に関わることで得られる効果や全国の先進事例について、楽しく分かりやすい例をあげて講演してくださいました。あっという間の1時間でした。

学校支援ボランティア活動がさかんな学校の児童生徒の方が学力が高い！というデータがあります。

知識は体験というインパクトがあると脳が認識するんです。



第1分科会 （26名）

コミュニティ・スクールへの負担感・不安感をどう解消していくか、地域ボランティアとPTA活動との連携の仕方、役割分担について考えました。

学校の中に地域の大人の居場所があるとそこが核になりボランティア活動が活発化するというアドバイスもありました。



第2分科会 (28名)

学校支援ボランティア活動はコミュニティ・スクールの根本を支えるもの。もっと充実させるためには登録ボランティアの得意分野と学校側の要請、両方のリスト化が必要なのでは？などの意見が出されました。



第3分科会 (33名)

全ての保護者・子ども達がお互いの違いを理解するためにすべき事を話し合いました。家庭でも話題にできるような情報発信、関係機関の連携の大切さを確認しました。

「特別」ではない「支援教育」を広げていくことが「みんなで育てみんなで支えみんなが育つ」コミュニティ・スクールの理念にかなうことであろうと確認しあいました。



第4分科会 (28名)

学校評価とは学校を一方向的に評価するものではなく、学校・地域・保護者間のコミュニケーションのツール。お互いの信頼関係を築くにはどうすれば良いのか話し合いました。学校行事やPTA活動に積極的に参加してもらうことが相互理解には有効だろうという意見でまとまりました。



【新着情報】

学校支援ボランティアの新メニューが登場!

◀図書館支援▶

今年 11 月から

大山小学校の昼休み(13:00~)

図書委員の子ども達と

☆図書の貸し出し

☆本棚の整理

☆本の修理

などを行っています。

学校図書館にはおもしろそうな本がいっぱい!

作業の合間にちょっと読んじゃったり∞∞

興味のある方、一緒にやってみませんか?



【学校は地域の核】境野健児先生のまとめ

我々は放射能汚染という厳しい現実の中に居るけれど、改めて学校の役割を考え直す機会を与えられた。地域は学校を核にしてまとまっている。

大玉は、子ども達の育ちを学校任せにしないで、自分達にできることは自分でもやろうよという意識が浸透している地域になっていると思う。

さらに子ども達が様々な大人達と関わって動詞の世界(打つ・投げる・飛ぶ・引く・削る etc)を体験する場を組織化して豊かな学びを培って欲しい。

行楽シーズンの日曜日の午後という貴重な時間、120名を超える方々が大王の教育を考えるために集いました。分科会も「もっと時間が欲しかった」という意見が多く寄せられ大王の人たちのパワーに感動した一日でした。
コミュニティ・スクール コーディネーター